

平成26年度
事業報告



日本赤十字社

Japanese Red Cross Society

新潟県支部

人間を救うのは、人間だ。



ハートラちゃん

5月8日、赤十字創設者のアンリー・デュナン生誕にちなんで制定された世界赤十字デーに、日本赤十字社の公式マスコットキャラクターが誕生しました。

『苦しんでいる人を救いたい』という強い思いで、ハートランドの森からやってきました。今後、日赤の活動を皆さんに広く知っていただくために活躍しますので、ハートラちゃんをよろしくお願いします。

Mission statement

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

第 1 活動資金の確保

1 社員制度（赤十字会員）の普及推進

個人社員数は、前年度に比して5.1%、23,003人の減少となり、
法人社員数は、前年度に比して0.6%、14社の減少となりました。

区 分	平成26年度	平成25年度	増 減
個人社員数	426,437人	449,440人	△23,003人
法人社員数	2,296社	2,310社	△14社
合 計	428,733人(社)	451,750人(社)	△23,017人(社)

2 活動資金（社費・寄付金）

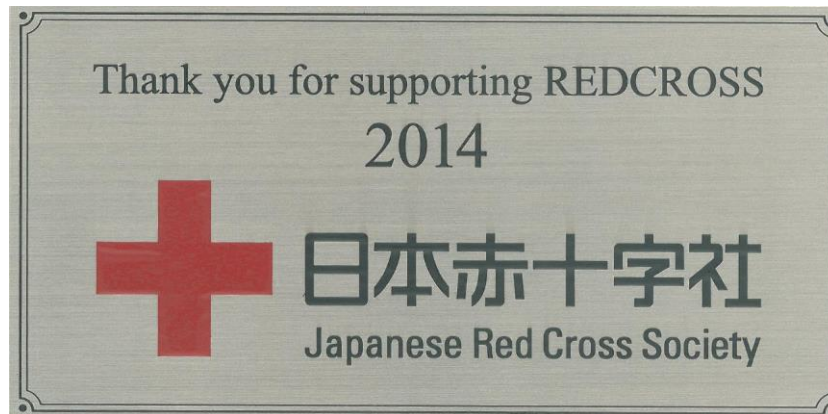
社資収入は、前年度に比して4.9%、15,547,002円減の
303,541,908円となりました。

（1）社資（社費・寄付金）実績額一覧

区 分	平成26年度実績額 (A) 円	平成25年度実績額 (B) 円	増 減 円	前年度比 (A)/(B) %
地区分区扱 (個人社資)	257,453,680	261,802,835	△4,349,155	98.3
支部扱 (個人社資)	9,824,399	11,212,056	△1,387,657	87.6
口座引落 (個人社資)	3,730,000	4,004,000	△274,000	93.2
クレジットカード 決済（個人社資）	1,112,500	1,157,670	△45,170	96.1
法人社資	30,912,984	31,282,058	△369,074	98.8
募金型 自動販売機	508,345	524,644	△16,299	96.9
海外救援金（地方 税法指定寄附金）	—	9,105,647	△9,105,647	—
計	303,541,908	319,088,910	△15,547,002	95.1

3 企業・団体とのパートナーシップ制度

赤十字活動資金への協力額に応じて、広告媒体の提供や社会貢献プレートなどを贈呈し、企業や団体の皆様とのパートナーシップによる活動資金の確保に努めました。



社会貢献プレート



当支部ホームページで法人会員名を掲載

第2 広報活動

1 マスメディア等を活用した広報

新聞やテレビ等を活用して、赤十字活動への理解推進に努めました。

Life & Live
テーマ 暮

子どもの健康と安全を守り、事故を防止するための講習会開催
●日本赤十字社「幼児安全法講習会」

子どもの日常には事故につながるさまざまな要因が潜んでいる

幼児安全法講習会では、やけどと頭打つ場合の対処法などを学ぶ

「生命と健康を守り、人間の尊厳を確保する」ことを目的に、災害時の医療救護活動や救護物資配布、ボランティア派遣、災害訓練、AED講習会などを行っている日本赤十字社。赤十字の創始者、アンリー・デュナンの誕生日である5月8日は「世界赤十字デー」であり、また5月1日が日本赤十字社創立記念日であることから、毎年5月を「赤十字運動月間」として「生命と健康を守る講習会」開催などさまざまなキャンペーンを行っている。

その1つが「幼児安全法講習会」。子どもの健康・安全・事故防止に関する知識と技術を学ぶものだ。

主な内容は、「子どもの成長・発達について」「年齢別精神・運動機能の特徴」「子どもに起こりやすい事故と事故予防、事故の場合の手当て」「子どもの病気の着目と起こりやすい症状への対処法」「子育てにおける社会資源の活用」など。心肺蘇生や一時救命処置、異物の除去、熱傷やおぼれたとき、熱中症、かみ傷、骨折、脱臼、捻挫などの事故に関する予防と手当て、病気のときの医師への対応など、幅広く具体的に活用できる講習となっている。

3日間の全日程出席者には「受講証」を交付。全日程出席者のうち、検定試験希望者には所定の検定を行い、実技・学科ともに80点以上の受講者には「認定証」を交付する。

いざというときに役立つ応急手当てや病気の対処法を知ることができる貴重な講習会。各日先着20人までなので申し込みは早めに。詳細は問い合わせを。

赤十字幼児安全法講習会
開催日時 6月21日(土)、22日(日)、28日(土)の
開催時間 9:00～15:00
会場 新潟県赤十字会館
新潟市中央区関原下川原町1-3-12
対象 15歳以上、年齢・性別不問20人
参加費 3日間で1,800円(税別、送料込、9割料金)
持ち物 大判ハンカチ、筆記用具、活動しやすい服装、飲み物、昼食
●申し込み・問い合わせ
日本赤十字社新潟支部
TEL 025(231)3121 E-mail jigyou@niigata.jrc.or.jp
ホームページ http://www.niigata.jrc.or.jp/

平成26年4月18日 新潟日報朝刊折込「assh」に赤十字活動記事を掲載



平成26年5月26日 FM新潟「SOUND SPLASH」番組内で
赤十字運動月間を広報

2 企業・団体とのパートナーシップによる広報

サントリービバレッジサービス株式会社・コカコーライーストジャパン株式会社



募金型自動販売機

3 インターネットを活用した広報

当支部ホームページにより、イベントや講習会の開催予定など最新情報の提供を行いました。

支部ホームページアドレス <http://www.niigata.jrc.or.jp>

4 イベント・キャンペーンの実施と参加

- (1) 赤十字ハートフル講座
- (2) 第11回長岡赤十字病院 健康まつり
- (3) 長岡赤十字看護専門学校 むつみ祭
- (4) 第17回新潟市民健康福祉まつり
(新潟市一日赤十字デー)
- (5) 第8回東区区民ふれあい祭

- (新潟市東区一日赤十字デー)
- (6) 秋葉区福祉健康フェスタ2014
(新潟市秋葉区一日赤十字デー)
- (7) 南区風フェスティバル&産業まつり
(新潟市南区一日赤十字デー)
- (8) 西っ子ふゆまつり
(新潟市西区一日赤十字デー)
- (9) 越後にしかわ時代激まつり
(新潟市西蒲区一日赤十字デー)
- (10) 江南区一日赤十字デー
- (11) FM PORTセーフティドライブ
スプリングキャンペーン@メイワサンピア



5 広報媒体物の作成

- (1) 各世帯配布チラシ、自治会・町内会掲示用ポスター等の作成
- (2) 支部広報用グッズの作成

6 地区・分区・奉仕団が実施した広報活動

- (1) 一日赤十字デー・ミニ赤十字デー
- (2) その他

防災訓練等の市町村行事に参加し奉仕団や地区分区職員が赤十字活動を紹介しました。(パンフレット配布、パネル展示、炊き出し等)



第3 災 害 救 護

1 災害救護体制の強化と充実

(1) 救護員の登録及び常備救護班の編成

※ 詳細は、資料編：統計「救護員の登録及び常備救護班の編成」に掲載

(2) 救護員等の訓練・研修会

ア 訓 練

名 称	期日・開催地	参 加 者	内 容
阿賀野川総合 水防演習	5月25日 阿賀野市	救護班要員（救護班1班） 災害対策本部要員 阿賀野市赤十字奉仕団 赤十字安全奉仕団五泉市分団	医療救護訓練 炊き出し訓練 住民への応急 手当指導 等
新潟県・新潟市 総合防災訓練	6月16日 新潟市	救護班要員（救護班1班） 災害対策本部要員	医療救護訓練
日本赤十字社新 潟県支部救護員 訓練	7月16日 長岡市	救護班要員（救護班主事） 災害対策本部要員 血液供給要員	救護資機材の 使用方法 他
長岡市 総合防災訓練	10月19日 長岡市	長岡赤十字病院 DMAT 災害対策本部要員 長岡市赤十字奉仕団越路分団 長岡アマチュア無線赤十字奉仕団	医療救護訓練 炊き出し訓練 無線通信訓練
新潟空港航空機 事故総合訓練	10月15日 新潟市	災害対策本部要員	医療救護訓練
日本赤十字社第 2ブロック支部 合同救護訓練	11月3日～4日 埼玉県さいたま市	救護班要員（救護班1班） 災害対策本部要員	医療救護訓練
新潟県 原子力防災訓練	11月11日 村上市	救護班要員（救護班1班） 災害対策本部要員	医療救護訓練
旅客船事故対策 訓練	11月26日 新潟市	救護班要員（救護班1班） 災害対策本部要員	医療救護訓練
日本赤十字社新 潟県支部救護員	11月28日～29日 新潟市	救護班要員 災害対策本部要員	医療救護訓練

訓練		赤十字防災ボランティア	
名 称	期日・開催地	参 加 者	内 容
日本赤十字社第 2 ブロック先遣 隊要員訓練	1 月 28 日～30 日 群馬県前橋市	災害対策本部要員	野営訓練 救護資機材の 取り扱い等
日本赤十字社第 2 ブロック被災 地支部運営訓練	2 月 18 日 千葉県	災害対策本部要員	被災地を想定 した支部の運 営訓練

イ 研修会

名 称	期日・開催地	参 加 者	内 容
日本赤十字社 こころのケア指 導者養成研修会	6 月 21 日～23 日 東京都	長岡赤十字病院職員 1 人	
第 1 回 全国赤十字救護 班研修会	7 月 5 日～7 日 兵庫県	長岡赤十字病院職員 3 人	講義、実習、総 合シミュレー ション他
救護員としての 看護師養成研修	7 月 15 日 長岡市	長岡赤十字病院職員 3 9 人	講義、実習
第 2 回 全国赤十字救護 班研修会	9 月 13 日～15 日 東京都	長岡赤十字病院職員 5 人 日本赤十字社新潟県支部職員 1 人	講義、実習、総 合シミュレー ション他
日本赤十字社 原子力災害基礎 セミナー	11 月 5 日 東京都	長岡赤十字病院職員 1 人	原子力災害の 基礎知識 他
第 3 回 全国赤十字救護 班研修会	11 月 22 日～24 日 北海道	長岡赤十字病院職員 5 人	講義、実習、総 合シミュレー ション他
第 4 回 全国赤十字救護 班研修会	1 月 10 日～12 日 東京都	長岡赤十字病院職員 4 人	講義、実習、総 合シミュレー ション他
第 1 回 日本赤十字社災 害医療コーデ ィネート研修会	3 月 12 日～13 日 東京都	長岡赤十字病院 1 人	災害時の医療 コーディネー ト 他

(3) 自主防災組織の活動支援

自治・町内会、コミュニティー協議会等で組織される「自主防災組織」の訓練にスタッフを派遣し、応急手当の指導や災害の講話等を行いました。

区 分	実施地域数	参加者数
平成 25 年度	2 1	2, 5 0 0 人
平成 26 年度	4 2	3, 0 4 5 人

2 災害救護装備・資機材の整備

(1) 災害救護装備の整備

※ 詳細は、資料編：統計「救護員の登録及び常備救護班の編成」に掲載

3 災害及び火災等の被災者への対応

(1) 救援物資の備蓄と配分

※ 詳細は、資料編：統計「救援物資備蓄状況」「救援物資交付状況」に掲載

(2) 災害死亡者弔慰金の贈呈

弔慰金を、20 人のご遺族へ贈呈



4 災害義援金の受付状況

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

名 称	金 額
7. 9南木曾町豪雨災害義援金	157,876円
平成26年広島県大雨災害義援金	2,053,239円
平成26年徳島県台風11号・12号災害義援金	72,062円
平成26年8月京都府・兵庫県丹波市豪雨災害義援金	139,013円
長野県神城断層地震災害義援金	801,076円
東日本大震災義援金	7,030,071円
合 計	10,253,337円

第4 赤十字奉仕団

県内78団6,968人の赤十字奉仕団は、災害時における救護支援活動や赤十字思想の普及など、赤十字の理想を達成するために必要な活動の推進を始め、他団体と連携を図りながら地域に密着した福祉活動を展開してきました。

※ 詳細は、資料編：統計「赤十字奉仕団結成状況」に掲載

1 奉仕団関係会議・研修会及び指導講師・職員の派遣

(1) 本社・第2ブロック・支部主催 会議・研修会

- ア 赤十字奉仕団中央委員会、第2ブロック奉仕団委員長会議 等
- イ 赤十字奉仕団支部委員会、奉仕団委員長・事務担当者会議 等
- ウ 赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会 等

(2) 奉仕団主催 研修会

- ア 赤十字ボランティア基礎研修会 35団
- イ 支部見学研修会（来訪団数） 8団

(3) 上記にかかる指導者（指導講師・職員）の派遣

- ア 派遣者数 約90人(延べ)

※ 詳細は、資料編：統計「奉仕団の育成関係会議・研修会」に掲載

2 赤十字防災ボランティアの育成と養成

(1) 第1回 防災ボランティア検討委員会

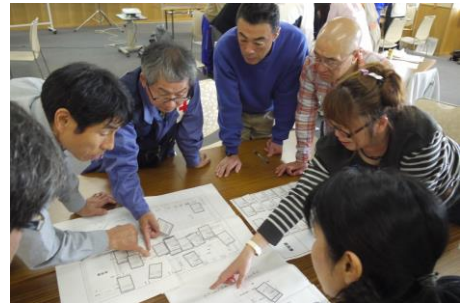
- ア 期 日 4月19日(土)
- イ 会 場 新潟市(新潟県赤十字会館)
- ウ 参加者 赤十字防災ボランティア検討委員 9人

(2) 第2回 防災ボランティア検討委員会

- ア 期 日 11月28日(金)～29日(土)
- イ 会 場 新潟市(メイワサンピア)
- ウ 参加者 赤十字防災ボランティア検討委員 7人

(3) 防災ボランティア養成研修会

- ア 期 日 11月29日(土)
～30日(日)
- イ 会 場 新潟市(メイワサンピア)
- ウ 参加者 奉仕団員24人



3 奉仕団による子ども支援

子ども・若者育成支援推進法(平成21年7月8日法律第71号)の目的に賛同し、子ども・若者の健やかな育成ができるよう、奉仕団が中心となって支援活動を行いました。

(1) せきじゅうじ 花絵アクション

- ア 期 日 5月3日(土)
- イ 会 場 新発田市(花摘み)、新潟市・見附市(花絵制作)
- ウ 参加者 奉仕団員 14人
- エ 内 容 児童養護施設(2施設)に入所している児童と奉仕団が、県の花「チューリップ」を使った花絵の作製

(2) せきじゅうじ 親子防災セミナー

- ア 期 日 10月12日(日)
- イ 会 場 小千谷市(小千谷震災ミュージアム そなえ館)
- ウ 参加者 親子10組26人 奉仕団員 9人
- エ 内 容 親子と奉仕団が非常食づくりや赤十字防災かるた等を体験

(3) せきじゅうじ クリスマス会

- ア 期 日 12月6日(土)
- イ 会 場 新潟市・見附市の児童養護施設

- ウ 参加者 奉仕団員 9人
- エ 内 容 児童養護施設(2施設)にクリスマスプレゼントの贈呈、
入所している児童と奉仕団がクリスマスカードの作製



第5 生命と健康を守る講習

1 講習会の開催

(1) 救 急 法

病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人（傷病者）を正しく救助し、医師または救急隊員などに引き渡すまでの救命手当、応急手当の知識・技術を普及しました。

企 画 講習名	支 部 ・ 施 設	地 区 ・ 分 区 ・ 奉 仕 団	団 体 依 頼	合 計
	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)
救急員養成	3 (69)	20 (267)	16 (645)	39 (981)
基 礎	3 (69)	33 (361)	30 (984)	66 (1414)

短 期	3 (190)	63 (4,966)	164 (6,077)	230 (11,233)
資格継続研修	1 (46)	20 (315)	2 (20)	23 (381)
合 計	10 (374)	136 (5,909)	212 (7,726)	358 (14,009)



(2) 水上安全法

水を活用して健康の増進を図るとともに、水の事故から尊い生命を守るための知識と技術を普及しました。

企 画 講習名	支 部・施設	地区・分区・奉仕団	団体依頼	合 計
	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)
救助員Ⅰ養成	0 (0)	1 (6)	0 (0)	1 (6)
救助員Ⅱ養成	0 (0)	1 (3)	0 (0)	1 (3)
短 期	0 (0)	1 (2)	9 (531)	10 (533)
資格継続研修	2 (9)	0 (0)	0 (0)	2 (9)
合 計	2 (9)	3 (11)	9 (531)	14 (551)

(3) 健康生活支援講習

健やかな老年期を過ごすための健康維持・増進と、高齢者の自立をめざした介護の方法などの知識と技術の講習を普及しました。

企 画 講習名	支 部	地区・分区、奉仕団	団体依頼	合 計
	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)
支 援 員 養 成	1 (9)	0 (0)	0 (0)	1 (9)
資格継続研修	1 (4)	0 (0)	0 (0)	1 (4)
短 期	0 (0)	17 (699)	3 (89)	20 (788)
災害時高齢者 生活支援講習	0 (0)	3 (102)	1 (20)	4 (122)
合 計	2 (13)	20 (801)	4 (109)	26 (923)

(4) 幼児安全法

こどもに起こりやすい病気への対応と、事故の予防や応急手当などの知識や技術の講習を普及しました。

企 画 講習名	支 部	地区・分区、奉仕団	団体依頼	合 計
	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)
支援員養成	1 (30)	6 (34)	0 (0)	7 (64)
資格継続研修	1 (16)	4 (14)	0 (0)	5 (30)
短 期	0 (0)	7 (137)	44 (944)	51 (1, 081)
合 計	2 (46)	17 (185)	44 (944)	63 (1, 175)



2 指導員等の育成

区 分	研修会等名称	回 数（開催地）	参加者数	主催者
救急法	講師研修会	1 回（東京都）	2	日赤本社
水上安全法	講師研修会	1 回（東京都）	1	日赤本社
	指導員研修会	1 回（新潟市）	1 1	日赤新潟県支部
健康生活支援講習	講師研修会	1 回（東京都）	1	日赤本社
	指導員研修会	1 回（新潟市）	1 5	日赤新潟県支部
幼児安全法	講師研修会	1 回（東京都）	1	日赤本社
	指導員研修会	1 回（新潟市）	3 4	日赤新潟県支部
救急法等指導員研修会		4 回（新潟市・長岡市・上越市・佐渡市）	1 5 9	日赤新潟県支部

3 指導員の資格継続適正審査

救急法等の講習を指導する指導員は、認定証の有効期間（3年）ごとに更新手続きを行います。この内、指導員資格更新3回目に達する指導員が、日本赤十字社救急法等講習規則施行細則に基づいて、必要な審査を受ける必要があります。

この制度は平成18年度から導入されており、平成26年度は救急法指導員14名を対象に資格継続適正審査を実施し、全員が資格を継続しました。

4 講習イベント

(1) World First Aid Day 2014

9月7日（日）イオンモール新潟南を会場に、「救急の日」行事として、日本赤十字社新潟県支部と新潟市消防局の共催イベント「救急の日2014」が開催されました。新潟市消防局と共催で行う救急の日イベントは、2009年から始まり6年目を迎えました。会場では、県内の赤十字奉仕団と一体になり、一般の方を対象にしたいざという時の応急手当、一次救命処置の方法及びAEDの使用法などの普及を行いました。



(2) 福祉・介護・健康フェア2014

11月3日（月）、新潟日報・新潟県社会福祉協議会・新潟市社会福祉協議会が主催した「福祉・介護・健康フェア2014」のイベントにおいて、福祉に関する県民の理解と関心を高めること、福祉・健康の向上を目的として健康生活支援講習などの技術を紹介しました。

朱鷺メッセを会場に、「ハンドケア体験コーナー」や「キッズフォトコーナー」、「災害通信指令車への乗車体験」などを通じて赤十字活動の理解・促進を行いました。



5 アルビレックス新潟・新潟アルビレックス・ベースボール・クラブとのパートナーシップによる講習会

クラブの選手を対象としたAED講習や県内の赤十字奉仕団と一体になってサポーターを対象とした赤十字広報活動（含むAED体験コーナー）などを実施しました。



第6 国 際 活 動

1 日本赤十字社が実施する国際開発協力事業への参加

対象国	事業内容	金額
ベトナム	沿岸地域の国土保全 植林による災害対策自然環境 復元事業	500,000円
ケニア	地域保健師及びボランティア を軸とした住民ネットワーク の強化等、保健医療サービスへ のアクセスを向上させること を目的とした保健衛生事業	500,000円



2 海外救援金の受付状況（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

名 称	金 額
NHK海外たすけあい	866,988円
シリア人道危機救援金	9,074円
イラク人道危機救援金	163円
シリア・イラク人道危機救援金	786円
ガザ人道危機救援金	17,973円
バルカン半島洪水救援金	3,871円
中国雲南省地震救援金	230円
2014年西アフリカ エボラ出血熱救援金	20,704円
2015年南太平洋サイクロン救援金	11,060円
海外無指定救援金	36,003円
合 計	966,852円

※「NHK海外たすけあい」は12月1日～12月25日まで、日本赤十字社、日本放送協会（NHK）、社会福祉法人NHK厚生文化事業団との共催で実施したものです。

第7 青少年赤十字

1 青少年赤十字の支援

（1）出前授業等の実施

児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切にし、地域社会、国家や世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成できるよう指導スタッフを派遣しました。

また、PTA行事や保健体育の授業としてAED研修を実施したほか、中越大震災や東日本大震災での活動を踏まえた防災教育研修を行いました。



(2) 教材の配布

ア 青少年赤十字加盟校に、機関紙や指導情報等の教材を配布しました。

また、東京学芸大学 渡邊正樹 教授や気象庁監修、文部科学省協力のもと本社が制作した教材、防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」を配布しました。



イ 昔ながらの遊びを通じて、「防災・減災」について学び、いざという時に適切な行動がとれるようになることを目的に、「赤十字防災かるた」を作製しました。

これは、新潟県支部が独自に作製し、新潟県内の青少年赤十字加盟校1年生に寄贈しました。子ども達が、繰り返し遊ぶことで、読み札の内容を覚え、身につくことを期待します。

また、寄贈用のかるたの他に、「ジャンボかるた」も作製し、市町村や学校、保育園等への貸し出しを行いました。



(3) 資材の配布

青少年赤十字加盟校の新規登録する児童・生徒に対し青少年赤十字メンバー章を配布しました。

2 プロスポーツチームとのパートナーシップによる活動支援

青少年赤十字加盟校・こども赤十字加盟園や、夏休み期間中に実施されるトレーニング・センターへプロスポーツ選手の派遣を行い、ボール遊び、動きづくりなど誰でも楽しめるスポーツクリニックを実施しました。



3 その他

(1) 青少年赤十字の普及と活性化

- ア 本社・ブロック主催会議・研修会への参加
- イ 支部嘱託指導講師による訪問活動
- ウ 新潟県青少年赤十字指導者協議会への活動費助成
- エ 定期的な情報提供やホームページの活用

(2) こども赤十字の普及と活性化

- ア こども赤十字ネームプレートの贈呈
通園カバンにつけるネームプレートを、全園児に贈呈しました。
- イ こども赤十字みらい文庫 絵本贈呈
園内文庫として絵本「くれよんのくろくん」を贈呈しました。

第8 交通安全帽交付事業

児童を交通事故から守るとともに、地域、家族ぐるみの交通安全意識を啓発することを目的に、小学校新入学児童に対して「黄色い交通安全帽」を交付しました。

- (1) 交付数 約20,000個
- (2) 事業実施主体 新潟県交通安全帽交付事業協議会
(新潟県、市町村、日赤県支部の三者で構成)



第9 医 療 事 業

長岡赤十字病院においては、多様化する医療のニーズに対応しながら、地域医療支援病院や救命救急センター・総合周産期母子医療センター・基幹災害拠点病院等をはじめとする高度で専門的かつ安全・安心な医療の提供に努めてまいりました。詳細については医療施設事業報告をご覧ください。

第10 看 護 師 養 成

長岡赤十字看護専門学校においては、医療に対する国民のニーズが拡大・多様化してきていることから、保健医療の分野で幅広く活躍できる資質の優れた看護実践者を育成し、災害時の救護活動にも対応できる看護師を養成しました。

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	計
学生数(人)	4 4	4 4	4 1	1 2 9

第 1 1 血 液 事 業

新潟県赤十字血液センターにおいては、「血液法」等の関係法令を遵守し、安全な血液製剤の安定供給の確保及び献血者の安全確保に努めました。

献血者数は、輸血による副作用軽減を目的として400mL献血率の向上等に取り組む、93,301人（前年度比95.7%）で4,242人の減少となり、効率的な事業運営を推進しました。

また、血液製剤供給数は、355,736単位（前年度比103.6%）と増加しましたが、医療機関からの要請には不足することなく安定的に供給することができました。今後についても、一層効率的な事業運営に取り組んでまいります。